

# 日本体育大学

## 令和6年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	全学部 特別選抜 リカレント選抜
科目	小論文

### 【出題の意図】

- ・大学特有の学びをどのように捉えているか。
- ・これまでの自身の実践経験と学術的知見を往還する姿勢をもっているか。
- ・リカレント選抜にふさわしい学びへの動機や目的意識をもっているか。
- ・具体的なエピソードや考え等を用いて、論理的に説明できるかどうか。

### 【模範解答】

大学で学ぶことの意義は、新たな知識を得ることにとどまらず、これまでの学習や社会経験を学問的視点から捉え直し、より深い理解へと高めていく点にあると考える。高等学校までの学びは、基礎的な知識や技能を体系的に習得することが中心であり、明確な正解を学ぶ側面が強かった。一方、社会における学びは、現場での経験を通して実践力や判断力を磨くことが重視される。

私は高校卒業後、プロスポーツ選手として活動してきた。日々のトレーニングや試合を通じて競技力向上に努める中で、自己管理や継続的努力の重要性を学んだ一方、練習や調整の多くは経験や感覚に依存していたと感じている。結果が出た際にも、その要因を理論的に説明することは難しく、怪我や不調に直面した際には、改善の根拠を見いだせないこともあった。こうした経験から、競技現場で得た実践知を、より普遍的な知として整理する必要性を強く意識するようになった。

競技引退後は、指導やサポートの立場からスポーツに関わり、次世代の育成や競技環境の向上に貢献したいと考えている。そのためには、自身の経験を伝えるだけでなく、科学的・教育的根拠に基づいて指導や支援を行う力が不可欠である。大学での学びは、こうした課題意識を出発点に、自ら問いを立て、理論や研究成果を通して検証することができるという特徴がある。

特に日本体育大学では、運動やスポーツを身体、発達、社会との関係の中で総合的に学ぶことができ、競技者としての経験を客観的に省察し、指導や支援へとつなげる力を養うことができる。大学で学ぶことは、競技者としての歩みを基盤に専門性を再構築し、社会に還元するための重要な意義を持つと考えている。その学びを通して、現場と学問を結びつける架け橋となる存在を目指したい。